

## 社会主義国キューバの医療と教育

私達は2018年6月3日～9日まで5泊7日の旅行に出ました。

気になる社会主義国の文化、教育、医療の国家形態での生活、学費や医療費は無料であると最低限の生活も保障してくれる、とても素敵な社会に思えるのだが・・・そんな中6月4日今回の目的でもある国立「アメイヘイラ兄弟病院」の視察を行った。教育と言えば義務教育から高校、大学まですべて無料、社会人になっても学ぶ人にはうれしい社会です。

医療は歯科から美容整形まで医療費が無料、高齢者介護施設も無料と夢のような国策です。「アメイヘイラ兄弟病院」はハバナ市内にあり、1957年に一般銀行から国立病院に変わりました。病院には早めの到着し、14:00から病院内の応接室の様な部屋に招待されました。対応に応じた方は副院長、看護部長、各科の師長と合流、(皮膚科師長、外科部師長、感染、消毒師長、国際外科部師長)の皆さんとの懇談が開始されました。

病院概要紹介、病院内42種専門科があり、744床のベット数、年間入院数15000人、年間外来患者数20万人とのことです。また、教育部に於いては年間600人の研修生がおり、看護部は看護師、インターン、博士号、合計3200名が現在就労している。専門医、技術者も含まれている。

検査部では、専門課程がありキューバ大学にて論文を作成提出しなければならない。また、臓器移植も行われており(心臓、肝臓、腎臓、脾臓、骨髄、角膜移植等)、昨年度から最新医療機器のMRI、アンギオグラフィー、感染研究等も行われていると説明があった。医師数は、キューバ全体で5万5千人おり、国民200人当たり1人と世界トップクラス、1984年からホームドクター制度施行、医師の他にも全国で7万3000人看護師、3万8000人の保健師が地域と密着し勤務している。

医療費、完全無料で外国人の治療も受け入れ、差別無の治療を行う方針、施行しており、ヨーロッパ、南米から治療に訪れる患者も増加している。美容整形、避妊手術、癌の手術など安い価格で受けられる医療ツアーも内外の注目を集めている。

また高齢者、平均寿命76歳と欧米諸国並みであり、高齢社会が危惧されているが介護施設なども無料で介護問題は起きていないとの説明があった。

医療費問題ではなくにが予算を出し、昨年は予算を上回る経常利益を出している。毎年の予算に対し、外国人受け入れすることで利益が計上しているとのことの説明だった。その後病院紹介DVDが放映あり、視聴した。

私たちからの質問は看護師の配置基準、労働条件、サービス残業、母子保護の

問題について質問を行った。

回答として看護体制日勤 4:1、夜勤 10:1 離職率は出していないが働き続ける意欲があれば継続して就労し、困難な事があればカウンセリングを行い継続して働けるようにしている。重症病棟看護配置基準 1:1、(専門看護師の配置) 中症病棟 4:1 軽症病棟 6:1 (神経科、腫瘍科) 一般病棟 11:1 の 936 名の看護師が就労している。人事課 1:1.4~2 名の配置 勤務時間、日勤、夜勤共に 12 時間勤務後 1 日~2 日の休暇、月に 14 回程度とのこと。

週労働時間 40 時間、変則勤務を行う 6 時間勤務、8 時間勤務が取り入れられている。メンタル問題にはカウンセリングを実施する。始業前のサービス残業なし、始業後は無く、あっても 15 分程度とのことだった。日本の看護師の資格問題では、すべて看護師以上、専門看護師、博士号と 3 段階ランクがある。看護学校は 1 校のみ 3 年(看護師) 5 年(大学) で専門看護師、博士号を取得する。学費 3 年間は国負担となっている。看護教育のカリキュラムの中に海外派遣授業が組み込まれており、連帯派遣、世界各国に派遣を行っている。2000 年以降医師団、専門看護師、統計学士など、海外の地震災害地、エボラ出血熱、感染症地域に派遣し、支援を行っている。看護学校、大学に海外派遣授業(内科)があるとのことである。

定年制度 60 歳、40 年~45 年勤務者も大勢いる。資格取得意思のある看護師は学費予算があり、経済的問題、情勢等があるが国の収入の中より医療への出支が優先されている。産休、育休については、産前、産後 8 週の休み、1 年間の育休があり、それ以外 3 ヶ月のバケーション休暇(2 年目以上)がある。母子保護の観点で妊婦は全体 5.0 人/日、看護師 1.4 人/日、医師 1.9 人/日キューバ制度によるものと語られている。また、人事、人材の育成を学び続ける事が必用と話されていた。1 時間半の濃い懇談会後国際外科病棟の 1 病室の見学し、視察終了したのである。

最後に今回の旅行で感じたことは、物資の不足やライフラインの悪さを感じ、配給制度、やみ市という言葉にびっくり、トイレ、水事情の悪い事に戸惑いを感じずにはいられませんでした。ヒッチハイク者も多く住宅の破壊も目立ちますが修繕費用が無いため壊れたままだった。そして、自由主義国、社会主義国どちらにしても貧困格差があると感じました。

牛込 知子